

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成22年9月17日)

雍也第六

10 冉求曰く、子の道を説ばざるに非ず。力足らざればなりと。子曰く、力足らざる者は、中道にして廢す。今女は画れりと。

冉求が孔子に言いました。

「先生が説かれる道を悦ばないわけではありません。ただ自分の力が足りないので、どうしても先生の言われるようなところまでいきません（先生の道を心から納得しないからではなくて、自分自身の力が足りないのです）」

孔子が言いました。

「力が足りない者は、途中で力尽きて倒れるものだ。お前は、力尽きて倒れてはいない。心の中で勝手に駄目だと言い切ってしまうている。自分で自分の力を限定して、力が足りないと言っているだけだ。」

力が足りない者は、力が足りないとは自分では言わない。余裕のある者がそういうのだ。お前は自分で自分の限界を作ってしまったのだから、もう一度チャレンジしてごらんと言っています。冉求というお弟子さんは、実力があるにもかかわらず途中で壁にぶつかる力を抜いてやめてしまう。だから駄目なのだとされています。

実力があるにもかかわらず途中でやめてしまう。自民党という組織もそうですね。その中で小泉さんの息子さんだけが氣を吐いているように見えますが、他の人たちは皆、冉求のように途中で力を抜いてしまうように見えます。

組織の中、或いは学びや習い事でも同じで、先生から見ると、<もうちょっと頑張れば良いところに行くのになあ、残念だなあ> というようなところを言っていると感じます。

この詩吟の会で、<もう草臥れたなあ。坦道先生もお出でにならないから来るのをやめようかな> 考えると、冉求と同じで自分で自分の限界を作ってしまうから、もう少しおやりなさいと坦道先生がおっしゃられるかもしれません。坦道先生がお元気な頃に、もし先生がお出でにならなくなったらどうでしょうか・・・と何人かの先輩方とお話したことがあります。その時にならないと分からないね・・・と言っておられましたが、皆さん続けておられます。そんなことを思い出しました。

11 子^し子^{しか}夏^いに謂^{いわ}いて曰^いく、女^{なんじ}君子^{くんしじゅ}儒^なと為^なれ。小^{しょう}人^{じん}儒^{じゅ}と為^なること無^なかれと。

孔子が弟子の子夏にお説教をしていると思って下さい。

「お前は人格の完成を求める君子のような学者を目指しなさい。こせこせした小さなことにこだわるような学者にはなるな」

渋沢栄一さんは、経世済民（世を治め、民を救う）が天職であると信じて実行してゆくことが君子の儒学であると言っています。世の為・人の為になるような学問を修める努力をしなさいということです。

今の学者は自分の身過ぎ世過ぎの為に学問をしている方が多くて、世の為・人の為の学問をする学者がどんどん減ってきているように感じます。とても悲しい部分だと思います。

例えば、今の円高についてどうすればよいか学者は早めに言うべきなのに、何も言わない。私が最近聞いた話では、或る貿易商社の社長が、「ここ2ヵ月ほどはずっと我慢の子で、会社で坐禅を組んでいました。社員はもう潰れるかもしれないと思って、黙って私の口元を見ていました」と言っていました。小さい会社ですから、円高がもろに影響しているのです。僅か数年前は為替差益で、こんなに儲かって良いのだろうかと思うくらい儲かったそうです。こういうことはビジネスの中ではあり得るのですが、本来、学者が経済学ではこうすべきであるという道筋を指し示すべきなのに、今はまるで当たりません。今では、<経済学という学問はない>というのが経済学者の定説になっているようです。何の為に学問をやっているのかと感じています。

12 子游^{しゅう}武城^{ぶじょう}の宰^{さい}と為^なる。子曰^しく、女^{なんじ}人^{ひと}を得^えたるかと。曰^いく、澹台滅明^{たんだいめつめい}という者^{もの}あり。行くに径^よに由^よらず。公事^{こうじ}に非^{あら}ざれば、未^{いま}だ嘗^{かつ}て偃^{えん}の室^{しつ}に至^{いた}らざるなりと。

子游というお弟子さんが、武城という村の代官になりました。

孔子が子游に「新しい村に行って治世の責任者になったわけだが、片腕の人材を見つけたかい」と聞きました。

子游が「澹台滅明という良い部下を見つけました。こせこせと近道を歩いたりしない。真っ直ぐの太い道を歩いて行って、公用でなければ私の部屋にも入ってこない。これは大いに役に立つ人物だと思います」と答えました。

論語は現実の世界の中に活かすものという例として、一つ思い出した経験を申します。

私の会社があります群馬県の太田市に或る大手スーパーのモールがあります。その施設が太田に進出する際に、最高責任者として来られた方と仕事の関係でお会いして、とても話が合いました。巨大なモールの警備は初めてだったのですが、仕事を戴いて以来お付き合いをさせて戴きました。

その方に、ロータリークラブの会合で会社の経営方針について話をしてくれるように頼みました。お願いした時は太田店の最高責任者だったのですが、実際に話をして戴く時には岡山に転勤しておられて、わざわざ岡山から太田へ30分間の話をする為に来てくれました。当時私はロータリーの会長だったので、この論語の一節をとって、

「岡山に転勤になったけれども、あなたは澹台滅明なる人物を得ましたか」とお聞きしました。勿論事前に澹台滅明の詳しい説明をしておきましたので、その方は、

「それらしい人物が出てきています。もう一息です」と返答をされて、論語にも習熟していて素晴らしいという評価を得ました。ということで、論語というのは、色々なところに活用が出来ます。

菅さんについて考えますと、民主党もトップになったら片腕が必要ですが、菅さんの場合は仙谷さんがそうなのでしょうか。子游は孔子に向かって「おります」と言ったけれども、菅さんは師匠である市川房江さん（もう亡くなっていますが）に澹台滅明なる人物は見つかったかと聞かれたら、何と答えるかなと思いました。